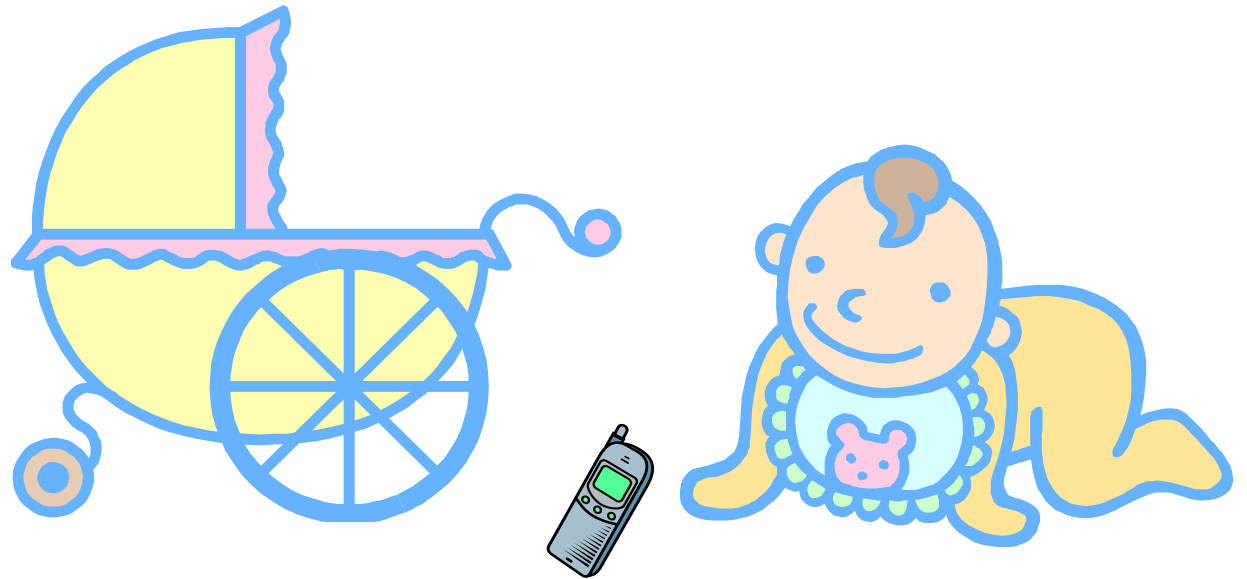


# 子育てと情報

修士課程2年  
小児看護学  
沢口 恵

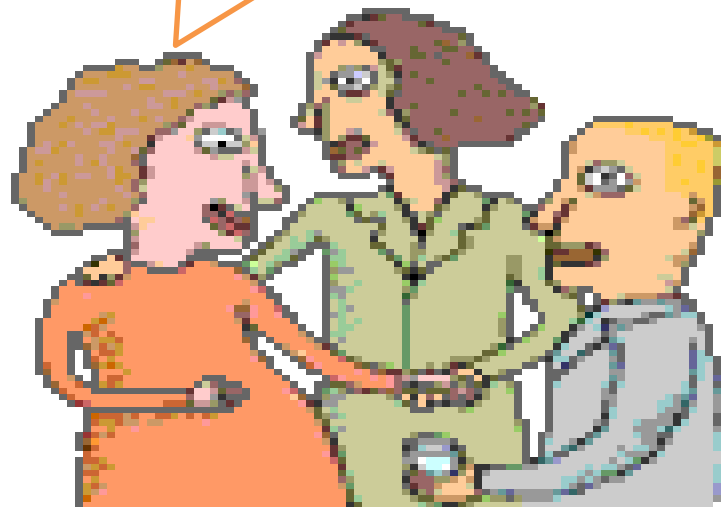


# ある子どもクリニックでのこと

Aちゃんのマ  
マがインフル  
エンザのB型  
にかかったん  
だって。

Aちゃんも熱  
が出て、これ  
から診察なん  
ですって。

この二人はママ友。  
Aちゃんのママも仲間。

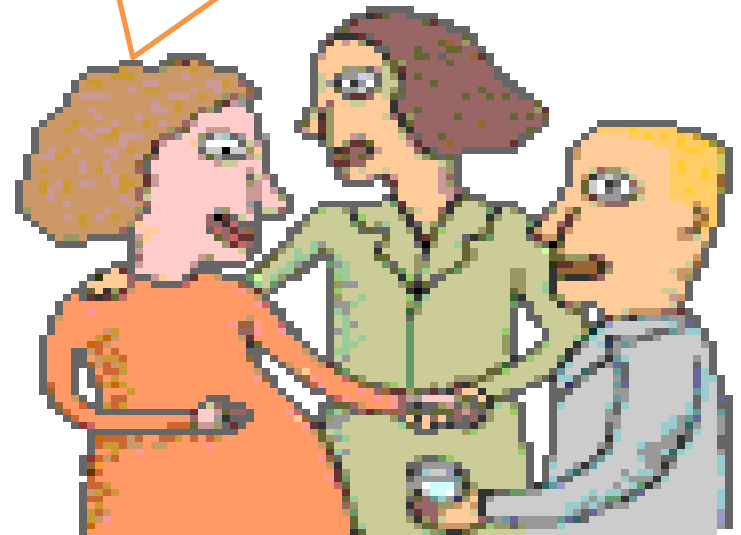


# さらに・・・

うちの子、  
Aちゃんと  
児童館で遊  
んでいたの  
よ。

うつったんじゃないかと思って診察  
に来たけど、大丈  
夫だったわ。

- なぜAちゃんとママの  
病気のことを  
知っているのだろうか？



# 待合室でのママたちの様子を見てみるとこんな姿が・・・

- ママ友を見つけたとき、自分の子どもへの体調を話し始める。
- 「今診察をしてもらったが、医師からこんな説明を受けた」
- 「検査結果は〇〇だった」という内容が聞こえてくることもある。



- 順番待ちのとき、
- 検査結果を待っているとき、  
メールをしていることもある。

パパにメール  
をしているの  
かしら？



- 気になることもある。

# 予防接種では・・・

再開になった予防接種の予約をお願いします。  
同時接種はできますか？

乳幼児期は接種しなければ  
ならない予防接種が  
8種類ほどある。  
働くママは大変である。



# 受診理由がこんなこともあった

私は様子を見てもいいかなって思っているんです。

でも、児童館で、お友達にこれは病気だ、早く病院にいったほうがいいって言われたんです。

どうしたらいいでしょうか。



# 疑問

- ママたちは子どもの健康に関する情報を、どこから得ているのか？





# 本で調べてみた

- 友達からの情報
  - 育児書・育児雑誌を読む
  - インターネットで検索
  - ツイッター・MIXIなどにつぶやく
- 
- (参考文献:丹羽洋子(1999). 今どき子育て事情 2000人の母親のインタビューから. ミネルヴァ書房. 148-169)

# 育児書を読む

- 育児書籍は子どもが病気になったとき、子どもの健康状態が気になるときに読む。
  - 役所からの通知は分かりにくい。
  - 育児書・育児雑誌は分かりやすい。
- 
- (参考文献:丹羽洋子(1999). 今どき子育て事情 2000人の母親のインタビューから. ミネルヴァ書房. 148-169)

# 育児雑誌を読む

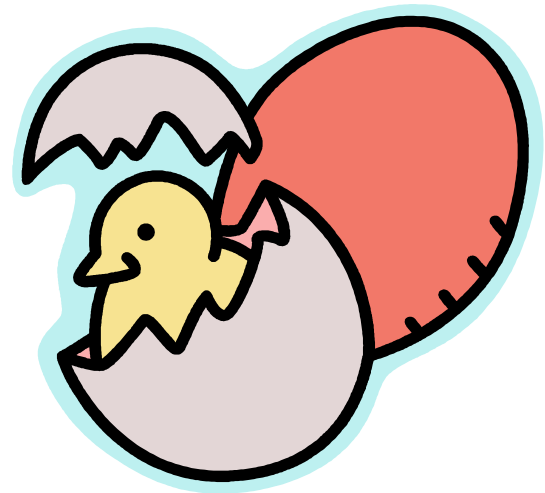
## マタニティ・育児・子育て雑誌の発行部数

- 1位：ひよこクラブ
- 2位：たまごクラブ
- 3位：初めてのたまごクラブ
- 4位：げんき

日本雑誌協会：[www.j-magazine.or.jp](http://www.j-magazine.or.jp)

マガジンデータ2011(2010年版)

データ：2009年10月1日～2010年9月30日



# インターネットで調べる

- 「子どもの病気」で検索

- 子どもの病気事典 [www.acajp.net/ad/sick](http://www.acajp.net/ad/sick)

子どもがかかりやすい病気を、新生児、アレルギー、感染症、心などカテゴリーに分けて紹介。

- WEB小児科 こどもの病気紹介所

[hukumusume.com/my\\_baby/sick/](http://hukumusume.com/my_baby/sick/) WEB問診ができる。

- みやけ内科・循環器科ホームページ

[www.miyake-naika.or.jp/medemiru.html](http://www.miyake-naika.or.jp/medemiru.html)

子どもの病気を写真で見ることができる。

# 予防接種で検索

- 国立感染症研究所 感染症情報センター
- 予防接種のページ

*<http://idsc.nih.go.jp/vaccine/vaccine-j.html>*

- 日本の小児における予防接種スケジュール  
予防接種スケジュールがダウンロードできる。

# 小児用肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチンの接種再開の情報について

- 厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/>

「小児用肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチンの安全性について」

平成23年3月8日 安全対策調査会

子宮頸がん等ワクチン予防接種後副反応  
検討会

# 「小児用肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチンの安全性について」

- 平成23年3月2日以降、小児用肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチンを含むワクチン同時接種後の乳幼児において5例の死亡例が報告され、これらについて評価を行った。
- 現段階の情報において、いずれもワクチン接種との直接的な明確な因果関係は認められないと考えるが、さらに入手可能な情報を次回までに収集する。

「小児用肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチンの安全性の評価結果について」

平成23年3月24日

医薬品等安全対策部安全対策調査  
会

子宮頸がん等ワクチン予防接種後副  
反応検討会



# 「小児用肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチンの安全性の評価結果について」

- 報告された7例の症例評価について、疾病の経過や疾病の重篤度について詳細な情報を入手し、改めて評価した。
- 現段階において、いずれもワクチン接種との直接的な明確な因果関係は認められない。
- 同時接種における、副反応の発現率は、単独接種に比べて高い傾向にあるとする報告もあるが、重篤な副反応の増加は認められておらず、特に安全上の懸念は認められない。

- 今後の対応として、  
同時接種より、短期的に効率的に予防効果が獲得できるメリットが期待されると同時に、それぞれ単独接種が可能であることを示した上で、同時接種を行う場合は、その必要性を医師が判断し、保護者の同意を得て実施する。

重篤な基礎疾患をもつ乳幼児についても、医師の判断により、実施する。

# 自分の住んでいる地域の 子どもに関する情報がほしい

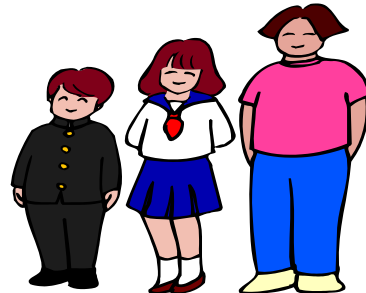
- 東京都なら  
東京都福祉保健局ホームページ  
「とうきょう子育てスイッチ」
- 「子育て情報をさがす」をクリック  
年齢、子育て情報の内容、地域で検索で  
きる。
- 区や市のホームページをみる

# ママ友からの情報

某病院のお父さんドクターAに聞いた話。

ドクターAはマンションに在住。そのマンションには「キッズクラブ」がある。

「キッズクラブ」では、「ママ同士の子育ての悩み相談」のほか、「予防接種をするなら〇〇小児科にいくといい」といった情報も集まる。

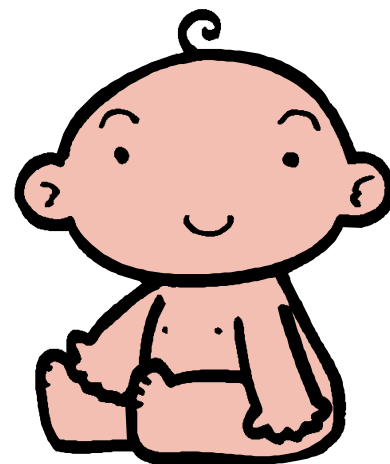


# つぶやく

- ツイッター
- MIXI
- Facebook など
- コミュニティに参加。
- 友達につぶやく。



情報を得る手段はわかる。  
情報は持っている。  
だけど、うちの子の場合、  
どうすればいいの??



# 子育ての状況

- 核家族化

- 幼いころに子育てを身近に経験したり、観察する機会が乏しい。
  - 近所に世間話をしたり、子どもの話をしたりする人がいない。
  - 相談できる人がいない。
- 育児の孤立化が進行している。

(参考文献: 日本子ども家庭研究所編集(2007). 日本子ども資料年鑑2007. KTC 出版. 19)

# 子育ての状況

- 少子化

→少子社会では数少ない子どもを大切に育てようとする傾向が強く、父親の家事・育児の参加状況が低い中で、母子の密着度が強くなる。

→母親の子どもへの期待が強くなるが、子どもは親の期待通りに育つとは限らない。

親の不安が強まる。

(参考文献:日本子ども家庭研究所編集(2007). 日本子ども資料年鑑2007. KTC 出版. 19)



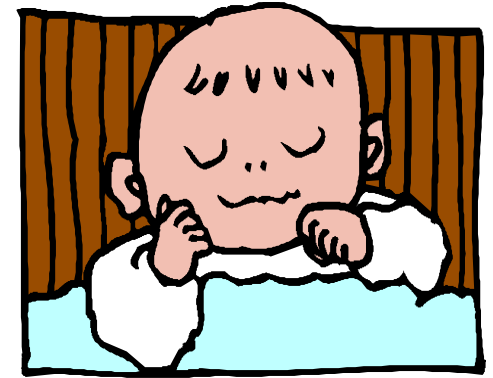
# 乳幼児期の子ども

- 発達が著しい時期。
- 乳児期・・・生後1年未満。  
母体内から外界へと大きく変化した生活環境に適応し、身体的・知能的機能の発達の著しい時期。
- 幼児期・・・1歳から就学前。
- 諸器官の構造・機能が成人に近い状態にまで成長・発達し、言語・思考などの精神活動も著しく活発になる時期。生活習慣を身につける時期。

この時期は、

- 子育てに手がかかる。
- 子どもの体調は不安定。
- 成長・発達とともに、生活習慣を身につけさせる時期。
- 事故を起こす危険性のある時期。
  
- 育児負担感や育児不安が強い時期と考えられる。
- 母親が自分なりの、その子どもに合った子育てを構築していく時期でもある。

# ママたちの現状



- 子育ての孤立化、育児不安が強い。  
→情報を集めようとする。
- 自分の子育てについて自信がもてない。
- どうしたらよいのかわからない  
→先輩ママから情報を得る。  
→先輩ママが子どもと関わる様子を見て学ぶ。  
→自分の子どもと同じもしくは近い月齢の子どもをもつママと親しくなり、悩みを共有する。  
→ネットワークをつくる。

# 子どもの健康に関すること

- 子どもの健康に関することは、医師や看護師に聞く。
- 内服方法、発達、食事、生活習慣の身につけさせ方など、何でも聞く。

- →判断がつかない。
- →判断を求められても困る。
- →不安。

を訴えることがある。



# 子どもの健康に関すること

- 現代のママたちは、子どもの健康に関することの選択と判断を求められる。

病院に行ってもいいですか？という問い合わせが病院にくることもある。

どうしたらいいのかわからない。  
自分の判断は正しいのか不安。  
とにかく誰かに聞こう。



# 例えば、発熱時に聞かれること

- 水分をとりなさいといわれてコップ1杯飲ませたら、吐きました。水分はとっていません。
- 熱があっても冷えないように厚着しました。
- 病院に来るためになにも食べさせていません。
- 体温が何度になったらお風呂に入れていいですか。
- 集めた情報は、選択や判断をするための材料となりうるのか。

# まとめ

- 私たちは、ママたちが判断できるように情報を提供、健康に関するアドバイスをを行う必要がある。
- ママたちは、子どもの健康に関して、今必要な情報は何か、どこから入手すればよいかと、その情報をもとに選択する力をつける必要がある。
- おわり